

国頭村立北国小学校全教室公開



児童1年1名、2年1名、3年1名
4年1名、5年1名、計5名、職員8名。
前年度、3年生1名の学校であった。
年度の半ばに4年生に転入生があり、久
しぶりの複数の児童が校内にそろった。
さらに29年度4月には1年～3年に
1名ずつの児童の転入があり、児童数が
5名となって新年度がスタートした。



左上写真、3～5年生3名による道徳の授業研である。見守る大人は私を含め7名、職員は授業者のT先生以外すべてが新任である。日本の教育は手厚い、いかなる地域の状況でも全国どこに居ても同じ教育を受ける権利が有されている。新任の先生方にも不安や戸惑い、「分からない」が多々あることが予想される。いかなる環境の中でも、子ども達の教育を施す聖職者として「教育の理念」「教師の使命」「人としての哲学」の旗を揚げ続けてほしい。本日のT先生の授業から学び、純粋無垢なへき地の子どもたちの学びの保障めざして、同僚のベクトルをそろえ教師達も互いに支え合う学校創りに向かうことを期待します。

[道徳の時間 3年～5年 3名] 授業者：T先生

[教師の人柄が創りだす教室の空気がある]



実に淡々とした始まりである。穏やかに静かに「安心して」授業が始まる教師の言葉も柔らかい、子ども達の表情も穏やか、教師と子どもの関係性がしっとりした空間をつくりだす。

子どもに発言を促す行為にも無理がなくじっくり待って一人ひとりの声を聴き合っている。

T：目の不自由な人を見かけたことがありますか。(T：は教師の発言)

子ども達は自分の生活体験を語る。3名の子ども達の体験を聴きながら教師が対話をコーディネートする。うまく話せない、言葉につまることもあるが、子ども達は安心して教師に言葉を預ける。



[各教科、領域、道徳の時間の授業では…]



「教師が言わせたいことを言わせる。教師が書かせたいことを書かせる。教師が覚えさせたいことを覚えさせることが、学校で学んだということにはならない。」

私たち現場の教師はこの言葉をどう受けとめ解釈したらいいのだろう。『主体的・対話的で深い学び』（新学習指導要領）をコーディネートする教師たちの新たな課題である。

子ども達に本時のテキストが配布された。まずは3枚の挿絵に見入る。

T：何をしているところですか、絵の下に文章で書いてください。「間違い」ということはないので安心していろいろな見方で書いてください。

女の子は、しばらくして書くことを教師に確認しエンピツが動き始めた。下中写真、二人の男の子はしばらく様子をうかがう。4年生の男の子の鉛筆が動き出して、3年生の男の子の鉛筆も動き出す。

学びは「真似び（模倣）」からという言葉がある、学び上手は沈黙の中でも学んでいる。



[対話の中に各々の学びが成立する]



さて、主体的学びや対話的学びが成立している状況ってどんな状況ですか？深い学びはどのように成立しますか？・・・難しい！

新学習指導要領の周知徹底期間である今年度中には各学校の校内研でテーマとして取り上げ、教師達で授業の中から「見取る力」を身に付けてほしい。わたし達教師も「分からないから」主体的に学ばなければならないの



である。来年からは新学習指導要領への移行期間となる。完全実施に躓かないよう備えておきたい。

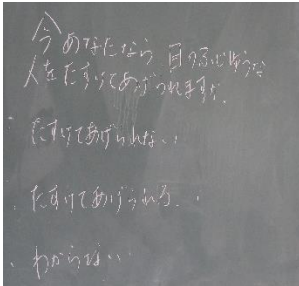
上写真、3枚の挿絵の話の中からKさん言葉に「点字ブロック」という言葉が出てきた。S君がちょっと困った様子で S：「点字ブロックって何？」の「分からない」が自然に出てきた。右上写真、女の子は、挿絵の中を指さし、丁寧に説明してあげた。S：「あ〜わかった」

[終末] T：あなたなら助けてあげられますか？ 教師の最後の「問い」である。

3つの選択を設定し、理由や考えを交流する意図である。

- ① 助けてあげられない ② 助けてあげる ③ わからない

Hくん（3年生）：②助けてあげる。理由は目が見えないでなんかにぶつかったら



痛いかわいそうだから助けてあげる。

Kさん：③分からない、理由はHくんが言うようにかわいそうだから助けてあげたい気持ちはあるが勇気がないって言うか、自分がその人にケガさせてしまったら・・・なんか・・・助けて



あげたいけどその時にならないとわからないと思う。…素晴らしい！なんて正直で、素直で優しい子なんだろう。去年、転入してきた当時はやはり表情も強張り、身体まで緊張していた女の子であったが、その時の姿が本時の授業の表情で私の記憶から消され安心と成長を感じさせてくれた。

写真中、わたしの考えを分かってもらおうと気遣いながら夢中になって対話が交わされる、彼女の奥深さやかわいいおもてなしの精神に私の心も癒された。

T先生、素敵な授業ありがとうございました。4年生のS君、ほんとに長い間一人でよく頑張りました。正直言って敬意を表します。去年から一緒に5年生のKさんも素晴らしい表情と言葉を持っているように思えます。お家での家族との会話もきっと素敵なふわふわ言葉が交わされていることなのでしょうね。今日は特に二人の成長をしみじみと感じた日になりました。これからも素敵な授業づくりに頑張ってください。

[へき地教育のハンディやリスクの払拭へ向けて！ メリット vs デメリット]



この8枚の写真から何がわかりますか？ マンツーマン指導、子どものことがよく見える、手厚い個別支援が可能になる。寄り添いが最大限生かされる。いろいろ見え方があります。当然デメリットのも多くあります。例えば、「手厚い支援」は、度が過ぎると自立や自主の妨げになります。さらにヒト・モノ・コトによっても様々な状況が発生します。大切なのは「どちらがいい」という二項対立的な考え方ではなく、常に事や内容によって判断していくことだと思います。（同僚との対話と依存が大切だとも思います。）

北国小学校へかかわる教師、保護者、地域のすべての大人達で、北国小の子ども達の未来に向けて素敵な教育を育てていってください。いずれは国頭中学校からグローバル化社会へ、仲間との共生、仲間との対話と協同が不可欠な環境に置かれます。笑顔で他者と関われる素敵な北国っ子へ期待します。

